

2020年1月22日

訪日外国人も注目している日本の伝統工芸。 「本絹古布のつるし飾り」と「金沢和傘」を 1Fロビーにて期間限定で展示いたします。

京王プラザホテル札幌(札幌市北5条西7丁目2番地1 代表取締役社長 池田純久)では、2020年1月25日(土)から3月3日(火)まで1階ロビーにて、北海道では大変珍しい「つるし飾り」と「金沢和傘」を展示いたします。

「つるし飾り」とは、江戸時代に稲取温泉(静岡県)で始まったとされる伝統工芸品の一種で、桃の節句を迎える時期に、布製の人形に糸を通して雛人形と共に飾る装飾品です。その歴史は古く、多くの人々が高価な雛人形を買うことができない時代に、女の子の健やかな成長を願い、家族や親戚、近所の人たちが一針一針布の切れ端を縫い上げて作った人形を持ち寄り、飾られたのが始まりといわれています。動物やお花、遊び道具や野菜など様々であり、一つ一つにはそれぞれの意味が込められています。長寿を表す亀をはじめ、五穀豊穡を願った雀、中には虫除けの効果があることから娘に悪い虫がつかない意味をもつとうがらしなどユーモラスなものもあります。数々の人形全てに生まれてきた子の幸せを願う親の気持ちが込められています。当ホテルで展示するつるし飾りは、キルト作家の松尾光代さんとひまわりグループ(埼玉県)のメンバーが代々受け継がれてきた着物などの貴重な本絹古布を使用し、一針一針手作りした大変貴重な作品です。2013年1月より展示を始め今回で8回目の開催となり、ご宿泊のお客様はもちろんレストランをご利用のお客様にも大変ご好評をいただいております。

また、本年はつるし飾りと併せて松田和傘店の金沢和傘も展示いたします。金沢の伝統工芸の一つである金沢和傘は最盛期には百十八軒もの傘屋があり金沢傘として県内外に売られていましたが、洋傘の普及により現在は松田和傘店一軒となっています。雨や雪が多い金沢の気候を考慮し他の和傘に比べて丈夫であること、その華麗で優雅な色とデザインが特徴です。

京王プラザホテル札幌では年々海外からのお客様を多く受け入れており、今回の展示が日本の文化を知っていただく機会の一つになればと願っています。



写真提供：金沢市

本件に関するお問い合わせ：京王プラザホテル札幌 営業企画担当
小笠原・横山まで
札幌市中央区北5条西7丁目2番地1 TEL 011-271-9260